



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三九五号〕

小満 しょうまん
五月二十一日

倭姫宮春の例大祭

二十四節気の立夏の次は小満。草木が周囲に満ち始めるといふ意味の通り、水田では早苗がすくすくと育ち、森の新緑も輝くばかりです。

伊勢神宮の内宮から車で五分ほどに倉田山くらたやまという地域があります。神宮ちよこかん徴古館ちようこかんや神宮美術館などが建ち、文化ゾーンともいえるところです。そこに伊勢神宮の別宮、倭姫宮やまとひめのみや(祭神・倭姫命)があります。五月五日は春の例大祭れいだいさいが開催され、大勢の参拝者で賑わいました。この別宮には倭姫宮御杖やまとひめのみや代奉賛会しろほうさんかいという民間の奉仕団体があります。そこが主となって例大祭が開かれるとあって、当日は奉賛会の会員をはじめ、一般の人々がお参りされます。この日に授与される紙製の鯉のぼりは特に人気が高く、求める人々の長い行列が出来ていました。

そして、四年ぶりに、神宮の楽師がくしや舞姫まひによる舞楽ぶがくの奉納もありました。社殿前で行われた舞姫二人による「倭舞やまとまい」。続いて、楽師による「納曾利なそり」です。重厚な黄色の装束と濃い緑色の面おもてをつけた楽師が社前の鳥居から入って来る様は、堂々として、厳かな雰囲気おもてが漂いました。

「こうした舞楽が奉納されると日常が戻ってきたように思いますね」と関係者も舞楽の奉納の復活を喜んでいました。

倭姫宮は、大正十二(一九二三)年十一月五日にご鎮座ちんざされ、今年、百周年を迎えました。当時の資料を読むと、当日は快晴。夜七時の太鼓の音が合図に、ご鎮座の儀ぎが執り行われ、新しい社殿に宮内省から運ばれた御霊代みたましろが安置されました。以来百年、この倉田山の地に鎮まっておられます。伊勢神宮創建に関わった皇女こうじよ、倭姫命を祭神とする別宮は、伊勢神宮の長い歴史の始まりに思いを馳せることができます。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 夏まちなまつり

その昔、町のあちらこちらに登場した涼しげな物売りや見世物、そして大道芸。「夏の楽しみ、夏までまつな！」を合言葉に、梅雨の晴れ間の楽しいひと時をお過ごしください。

と き／6月2日(金)～4日(日) 10:00～17:30 (催しにより異なる)

ところ／おかげ横丁一帯

● 大道芸と紙芝居

かつて町中の子どものための娯楽として市民権を得ていた街頭かみしばい。バナナの叩き売り、ガマの油売り、アクロバットバランス、ジャグリング、パントマイムなどの大道芸が昔ながらの夏の楽しみを皆様にお届けします。

と き／6月3日(土)、4日(日)

ところ／おかげ横丁内「太鼓櫓」、かみしばい広場

出演／三ツ沢グッチ、石原耕、ももっち、ゼロコ、メランコリー鈴木

● 夏の風物屋台

昔なつかしい食べ物や飲み物、道具や遊びなど、このお祭りだけの「夏の風物詩」をお楽しみください。

と き／6月2日(金)～4日(日)

ところ／おかげ横丁一帯

内容／鮎の塩焼き、飴玉で作るふわふわ綿菓子、べっこう飴、枇杷葉湯、クラフトコーラ、鼻緒が選べる下駄、季節の絵手ぬぐい、初夏の盆栽、お菓子が的の射的、金魚すくい、めだかすくい、ヨーヨー釣りなど

● 茅の輪くぐり

茅葺(ちがや)で作られた直径2mほどの輪をくぐれば、無病息災のまじないになるといいます。本来は神社において6月30日に行われる風習ですが、夏をちょっぴり先取りして行います。

と き／6月2日(金)～4日(日)

ところ／おかげ横丁入口常夜燈付近

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 伊勢のことば談義

そういやなあ、こないだも「さきって」と「しあきって」の話をテレビでやっと思ったんさ。伊勢では「しあきって」っていうたら「明明後日」やけど、標準語では「明明後日」なんさなあ。なんで、わざわざ同じ語形で違う意味を使てござるんやろか。ほれに、「さきって」と「しあきって」の境目が三重県内にあるもので、よけい話がややこしことになつてゐるやわ。皆さんもそれぞれご存知の地域のことばを持ち寄っておいでてくださいなあ。

と き／5月22日(月) 13:30～15:00

講師／齋藤 平 (皇學館大学教授)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

ばな
どんど花

齋宮跡のある明和町には花菖蒲の原種、ノハナショウブが群生しています。「どんど」と呼ばれる取水口付近にたくさん咲いていたことから「どんど花」の愛称で親しまれています。濃紫色の美しい花を、三色の練り切りで表現しました。

いせなでしこ
伊勢撫子

またの名を「御所撫子」とも呼ばれ、その昔、斎王となられた皇女が遠く都を懐かしみ御所から移し植えたと伝えられています。薄紅色の羊羹をきんとんに仕立て、今が盛りと咲く、優雅な伊勢撫子に見立てました。

あお
青
うめ
梅

雨の恵みを受け、ここ伊勢の地でも青梅が目にも清々しく、実りの時を迎えようとしています。刻み梅入りの白餡を、外部で包みました。爽やかな青梅の香りが嬉しい、五月雨の便りです。